

# 病床再編計画について



徳島県鳴門病院

院長 邊見 達彦

# 1 現状(入院患者の状況)

## (1) 新型コロナウイルス感染症流行以前(令和元年度・退院月ベース)

※DPCデータを使用

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
該当患者割合 A	14.1%	48.6%	29.1%	8.2%	100.0%
該当入院患者延数 B(A×75,995人)	10,715	36,934	22,114	6,232	75,995
1日あたり入院患者数 C(B/365日)	29.4	101.2	60.6	17.1	208.3

※上記結果を病床稼働率で除して、  
必要病床数を推計



- ・高度急性期 3,000点以上
- ・急性期 600点以上3,000点未満
- ・回復期 225点以上600点未満
- ・慢性期 225点未満

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
病床稼働率 D	75%	78%	90%	92%	
必要病床数 (C/D)	40	130	68	19	257

# 1 現状(入院患者の状況)

(2)新型コロナウイルス感染症流行後(令和2年9月・10月:新型コロナ専用病棟確保後)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
該当患者割合 A	14.0%	49.3%	30.1%	6.6%	100.0%
該当入院患者延数 B(A×11,598人)	1,621	5,720	3,488	769	11,598
1日あたり入院患者数 C(B/61日)	26.6	93.8	57.2	12.6	190.2

※上記結果を病床稼働率で除して、  
必要病床数を推計



	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
病床稼働率 D	75%	78%	90%	92%	
必要病床数 (C/D)	36	121	64	14	235

## 2 課題①

入院患者の「約8割」が自宅へ退院

- 透析、感染症、専門的なリハビリの必要の有無などにより、連携医療機関への紹介や在宅への復帰が難しい回復期及び慢性期の患者が、**新型コロナウイルス感染症流行後も同様に、「3割以上」入院**している。

- 当院の特徴であり、主要な診療科である**「整形外科」**においては、**県外や県内遠隔地からの困難症例の紹介患者が多く**おり、十分な医療管理と高度で熟練したリハビリ対応が必要である。

- 救急専門医を確保し、**令和2年4月に新設した「救急科」が地域に浸透し、救急搬送患者受入数は着実に増加**しており、今後も回復期の患者の増加が見込まれ、地域の医療機関と連携した対応が必要である。

また、現在、第3期中期計画に位置づけた「救急総合診療センター」の整備検討を進めており、さらなる救急医療体制の充実に取り組んでいる。

	H29	H30	差
鳴門市	544	570	26
その他県内	588	797	209
県外	154	167	13
計	1,286	1,534	248

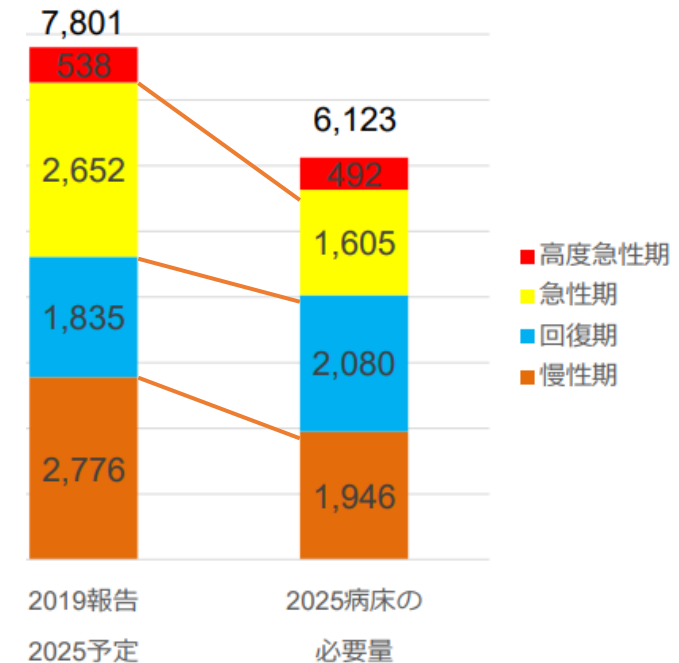
※各年の10/1～翌年9/30まで  
※脊椎脊髄センター開設(H30.12)

令和元年度 2,187件 ⇒ 令和3年度(見込) 2,400件超

## 2 課題②

- 徳島県北部を中心に、香川県東部や兵庫県淡路島をも診療圏とする、吉野川北岸で唯一の「総合的診療基盤を持つ中核病院」として、これらの回復期の患者の方々に適切に対応し、安心・安全に退院後の自宅内生活を送っていただくことが必要不可欠である。

そのため、地域の有床診療所が減少している中、不足する東部圏域の回復期病床の充実を図り、地域の医療ニーズに応えていく必要がある。



病床機能報告による病床数と病床の必要量との比較(東部)  
※R2年度第3回徳島県東部地域医療構想調整会議資料抜粋

# 3 病床の再編について

現在、新型コロナウイルス感染症の専用病棟として、1病棟(6階東病棟:48床)を確保し、入院受入を行っているが、**新型コロナウイルス感染症収束後に、「地域包括ケア病棟」を整備し、これらの課題に対応をしていきたい。**

※急性期48床⇒回復期48床へ転換

病棟	病床数	病棟	病床数
6階東病棟	急性期48床	6階西病棟	休床22床
5階東病棟	急性期46床	5階西病棟	急性期48床
4階東病棟	急性期40床	4階西病棟	急性期47床
3階東病棟	急性期44床	HCU	急性期6床
健康管理センター	6床		
計	307床		



病棟	病床数	病棟	病床数
6階東病棟	回復期48床	6階西病棟	休床22床
5階東病棟	急性期46床	5階西病棟	急性期48床
4階東病棟	急性期40床	4階西病棟	急性期47床
3階東病棟	急性期44床	HCU	急性期6床
健康管理センター	6床		
計	307床		

新型インフルエンザや新型コロナウイルスなど、全県を挙げた感染症対応が必要な事態を想定し、リバーシブルな運用が可能な整備を行う。

# 4 地域包括ケアの深化

また、救急搬送患者の受入の充実はもとより、紹介率、逆紹介率の向上を図り、地域の医療機関との連携のさらなる充実を図りたい。

(参考)第3期中期計画に明記している目標数値

・救急搬送患者受入率	令和元年度 85%	⇒	令和6年度 90%
・紹介率	令和元年度 76.7%	⇒	令和6年度 78.0%
・逆紹介率	令和元年度 101.5%	⇒	令和6年度 110.0%